

(3) ASD 児の保護者のストレスと療育の関連 — TEACCH 自閉症プログラムを参考にして —
Relationship between Stress and Support for parents of a child with Autism Spectrum Disorder
—Based on TEACCH Autism Program—

川崎医療福祉大学大学院医療福祉学研究科医療福祉学専攻修士課程 ○福井 梨乃

自閉スペクトラム症（以下 ASD）児をもつ保護者は、他の障害児の保護者よりもストレスが高いことが報告されている。ASD 児への支援である療育を受けている保護者は、受けていない保護者よりストレスは低いことも明らかになっている。また ASD の特徴として、変化への適応の苦手さがあるため、家庭生活では保護者の理解が重要になってくる。

アメリカ・ノースカロライナ州には、ASD の人々への教育と福祉の総合的・包括的な援助システムとして実施されている TEACCH 自閉症プログラム（以下 TEACCH）がある。本研究では TEACCH における保護者との協働という考えを元に、ASD の特性理解および、家庭での構造化の指導法の実践・理解と、保護者の育児ストレスの変化との関連をみることを目的とする。

方法として、療育を受けていない ASD 児（4歳 11ヶ月）とその保護者1組を対象に、TEACCH の

診断後に行われる継続診断セッションを参考に、対象児への個別療育、対象者への面接を各8回（1回45分間）ずつ行った。実施前と終了後の ASD の特性理解や家庭生活での様子の変化を見るために、日本版 PSI 育児ストレスインデックス、Vineland- II 適応行動尺度、インタビューを行った。その結果、育児ストレスの総点が減少するのではなく、162点から167点へ増加していた。このことは、療育を受けていなかった家族に起きがちなことである。また育児ストレスの親の側面“社会的孤立”においては11点から7点へ減少したことから、初めて療育に繋がり、面接において対象者が話をできたことが、社会的孤立を感じるストレスの減少につながったと考えられる。また対象者のインタビューでの発言の変化から、実施前は対象児に対して困っていることを訴えていたが、終了後は対象児の特性を答える発言へと変化していた。